

かわじまスーパー・シティプロジェクト ～ここが好き、やっぱり好き～ 地域まちづくり計画



川島町マスコットキャラクター かわべえ、かわみん

令和8年9月

川島町

取組の概要

まちづくりにおける課題

本町では、人口減少や少子高齢化への対応として有効な政策手段である「コンパクト・プラス・ネットワークのまちづくり」が求められている。

加えて、職住近接による住みよいまちづくりの観点から、川島IC周辺における更なる産業基盤整備の早期実現も、喫緊の課題となっている。

本町の過半を占める農地は、総農家数の減少と共に、年々その面積が減少しているため、これらの農地を次世代に引き継ぎ、豊かな田園空間を保全していく必要がある。

河川に囲まれた低地にある本町では、大雨により河川が決壊・氾濫した場合、町全域が浸水するなど、甚大な被害の発生が危惧されているため、更なる水害対応の強化が求められている。

まちづくりの方向性

公共交通の利便性の高い地域に住居や生活利便施設などを誘導しつつ、各地域を公共交通などのネットワークで結んだコンパクトな都市の形成を目指す。また、川島IC周辺においては、計画的な都市的土地利用への転換により、町の活性化につなげる。

農地については保全を図りながら、農地集約、担い手確保等の施策により、農地面積減少や耕作放棄地増加を最小限にとどめることを目指す。

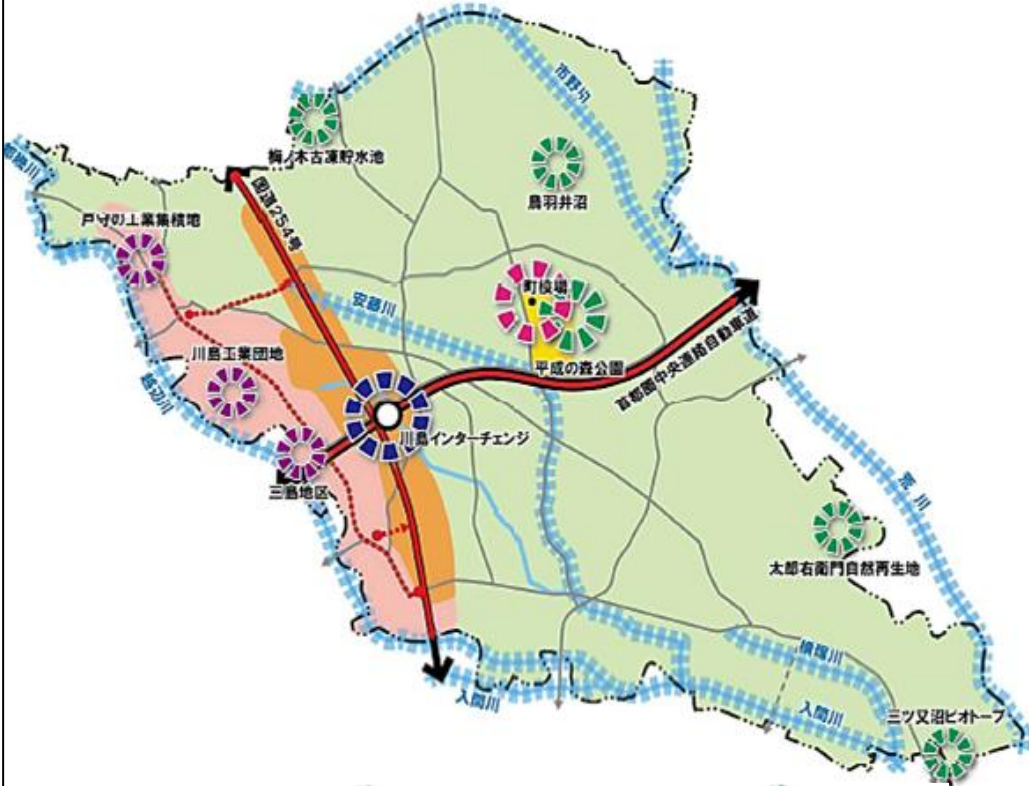
また、災害から町民を守るために、防災拠点の整備や避難体制の充実に向けた取組を進める。

他の計画における位置付け

- ・第6次川島町総合振興計画（後期）
- ・川島町都市計画マスタープラン
- ・川島町地域公共交通計画
- ・第2次川島町地域福祉計画
- ・川島町環境基本計画
- ・川島町地域防災計画
- ・川島町公共施設等総合管理計画
- ・川島町学校跡地活用基本計画
- ・川島町子ども・子育て支援事業計画

対象地域及び区域 町全域

地図



【凡例】

- | | |
|------------------|-----------|
| 公共・公益拠点 | 水と緑の拠点 |
| 川島インターチェンジ周辺産業拠点 | 工業拠点 |
| 道路交通軸 | 水と緑の軸（河川） |
| 市街地ゾーン | 行政・交流ゾーン |
| 新市街地ゾーン | 田園ゾーン |

地域の現況

人口・世帯の状況

本町の総人口は、平成12年の23,732人をピークに減少を続けており、少子高齢化を背景とした更なる人口減少は、本町でも避けられない状況にある。

令和2年の人口推計を上回るスピードで少子化や転出超過が進んでおり、令和8年3月策定の「第6次川島町総合振興計画」においては、令和7年度の人口18,529人に対し、令和42年度には11,906人と約7,000人の減少を推計している。

一方、世帯数は令和7年度まで増加しているが、1世帯当たりの人数は、昭和45年の5.06人/世帯から一貫して減少傾向にあり、令和7年度には2.21人/世帯で、核家族化が進行していることがうかがえる。

高齢化率(65歳以上の割合)は増加傾向にあり、令和7年では38.56%となっている。

地域交通の状況

町内に鉄道路線・駅はなく、地域公共交通として、町外の駅へ接続するバス路線とデマンド型交通(かわみんタクシー)が運行している。路線バス4路線のうち3路線は南北方向、1路線が東西方向に運行している。

また、道路交通網としては、国道2路線、県道8路線が通過して主要道路の骨格を形成している。

高規格幹線道路である首都圏中央連絡自動車道については、町内に川島インターチェンジがあり、広域交通の利便性が高くなっている。

開発の状況

令和2年の地目別土地面積は、農地が2,260.8ha(そのうち、田は1,425.5ha、畑は835.3ha)と、全体の54.3%を占めており、宅地は554.9haとなっている。

川島IC南側及び旧国道254号沿道に商業用地が並び、国道254号より東側では、田が大部分を占めているものの、道路沿道に住宅用地が集まり、集落を形成している。

本町の面積割合は、市街化区域が7.6%、市街化調整区域が92.4%となっている。用途地域は、住居系用途地域が189.2ha(59.9%)、工業系用途地域が126.3ha(40.1%)となっている。

大規模開発としては、川島工業団地造成事業約55.2haが昭和57年に、川島IC北側地区土地区画整理事業約47.0haが平成21年に、三島地区土地区画整理事業約5.2haが平成30年に完了した。また、川島IC南側地区土地区画整理事業約29haが令和8年度に認可された。

地域資源

本町は、埼玉県ほぼ中央にあり、東京都心から約45km圏内に位置し、町域は東西方向11.2km、南北方向7.9kmにおよび、面積は41.63km²を有している。また、荒川をはじめ都幾川、越辺川、入間川および市野川などの河川に囲まれている。

本町の過半を占める農地は、食糧生産機能のほか、環境や生態系の保全、良好な景観形成などの多面的な価値を有している。また、農業用排水路や池沼も多くみられ、こうした水辺空間は、町民の憩いやレクリエーションの場にもなっている。

本町の主な観光施設である平成の森公園では「かわじまスプリングフェスティバル」や「かわじまランタン祭」といったイベントが開催されており、多くの町民の憩いや交流の場所となっている。

まちづくりのコンセプトと事業全体の概要

まちづくりのコンセプト

公共施設が集約している役場庁舎周辺の行政サービスや交流機能の強化を図るとともに、地域活動センター等を活用した地域住民の交流拠点の整備を進める。

加えて、圏央道川島ICを有する立地優位性を活かし、地域経済の活性化と雇用創出の核となる産業集積の基盤として、川島IC南側地区の整備を推進する。また、企業誘致を積極的に推進し、地域産業全体の強化につなげていく。さらに、エネルギー融通や災害時の資材提供など、周辺地域と一体となった持続可能なまちとなるように整備を進める。

バスやタクシーなどの公共交通サービスを将来にわたり持続可能なものとするため、交通事業者と連携しながら効率的な交通ネットワークの構築を進める。また、地域内の輸送資源を総動員し、既存の公共交通を補完するサービスの導入を促進する。

町内に点在する地域資源を最大限に活用し、相乗効果の発揮による地域経済の活性化を図る。また、かつての基幹産業である農業を再興するため、スマート農業の導入などにより農業の効率化を推進し、経済性を高める。

災害から町民を守るため、避難所をはじめとした防災設備の整備や避難体制の充実に取り組む。特に、災害時の応急活動や資機材の備蓄拠点として、水防拠点の整備を進める。

推進体制

本町のスーパー・シティプロジェクトの推進を始め、川島町全体のまちづくりを推進する「川島町総合振興計画審議会」において検討を進める。

〈川島町総合振興計画審議会 構成員〉

・地元住民	・行政関係	・農業関係	・商工関係
・教育機関	・NPO法人	・金融機関	・学識経験者

事業全体の概要

- 【コンパクト】各地域の特性に応じた賑わいのある拠点形成
- ・ 役場周辺における行政サービス・交流機能の強化
 - ・ 地域活動センター等を活用し、地域住民の交流拠点を整備
 - ・ 川島IC周辺を産業拠点とし、産業の活性化を促進
- 【スマート】スマート技術を活用した交通ネットワーク及び農業の活性化
- ・ 地域公共交通計画と連動した、拠点間交流や通勤通学のための町内外の拠点と拠点を結ぶ既存公共交通の機能拡充やスマートモビリティを活用した公共交通ネットワークの構築
 - ・ 農業活性化のため、スマート技術を活用した農業の省力化・効率化
- 【レジリエント】防災対策及びレジリエンスの確保
- ・ エネルギーの循環利用(地産地消)を目指した取組
 - ・ 農地等への太陽光発電の設置や、公共施設へEV充電スタンドの設置により、災害時電源を確保
 - ・ 官民連携による避難場所の設置、災害支援物資の安定供給及び太陽光発電・蓄電池設置の推進
 - ・ 河川監視カメラや水位計の設置による避難の判断に資する迅速な情報提供
 - ・ 大規模水害発生に備え、水防拠点等を整備

計画図

コンパクト

- 産業活性化を促進（圏央道川島IC周辺）
- 行政サービス・交流機能の強化（役場周辺・平成の森公園）
- 地域住民が集い交流する拠点整備（地域活動センター等）



レジリエント

- エネルギーの循環利用（地産地消）
- 農地や公共施設等への太陽光発電や蓄電池、EV充電スタンドの設置
- 官民連携による避難場所の設置、災害支援物資の安定供給等
- 河川監視カメラ・水位計の設置
- 高台避難場所等の整備



スマート

- 既存公共交通の機能拡充やスマートモビリティを活用した公共交通ネットワーク構築（拠点間）
- スマート技術を活用した農業の省力化・効率化



コンパクトの要素の実現を目指す区域：市街地ゾーン、新市街地ゾーン、行政・交流ゾーン

(凡例)

道路交通軸	水と緑の軸（河川）	公共・公益拠点	水と緑の拠点
市街地ゾーン	行政・交流ゾーン	川島インターチェンジ周辺産業拠点	工業拠点
新市街地ゾーン	田園ゾーン		

【コンパクト】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール						備考	
			R8	R9	R10	R11	R12	R13以降		
交流拠点力の向上、賑わい創出拠点の整備	町・民間事業者	公共施設が集約した役場周辺施設の長期的な土地利用構想の策定、策定構想に基づいた交流拠点としての機能の高いまちづくりを進める。	トライアル・サウンディング	提案募集 運営事業者公募	運用開始	施設整備検討				
公共施設、民間施設の複合化検討	町・民間事業者	地域活動センターの適切な管理を行いつつ、統廃合等の将来的なあり方を検討する。各施設の今後の在り方を検討し、他施設への移転・複合化を図り、交流拠点の整備を行う。	改修、廃止、移転等の検討			移転・複合化				
川島IC周辺の産業活性化の促進	町・民間事業者	町の産業復興と雇用創出の核となる企業集積の基盤を確保し、地域経済の活性化を図るために、川島IC南側地区の整備を推進する。また、エネルギー融通や災害時の資材提供など、周辺地域と一体となった持続可能なまちとなるように整備を進める。	関係機関調整・事業推進							
町の将来を見据えた公共施設等総合管理事業	町・民間事業者	町内にある廃校舎等の公共施設及び町有地の地域資源を生かした活用方法を検討する。	公募受付	審査	契約	運用				

【スマート】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール						備考
			R8	R9	R10	R11	R12	R13以降	
スマートモビリティを活用した公共交通ネットワークの構築	町・民間事業者	かわみんタクシーにおけるマイナンバーカードの活用、東武バスとかわみんタクシーが連動可能なアプリ等を実装するなど、最新技術の導入を検討することで誰もが使いやすい公共交通ネットワークの整備を目指す。	新技術の導入検討						
かわみんタクシー乗り合わせの促進	町・運行事業者	町の負担を含めた事業性改善を目的にかわみんタクシーの乗り合わせを促進する。 ①案内チラシを用いた乗り合わせの周知 ②配車アプリを活用した実証実験を行い相乗りを促進する。	乗り合わせ周知		調査・検討	実証実験		評価・検証	
スマート農業の導入	町・民間事業者	かつての基幹産業である農業を再興するため、スマート農業の導入により農業の効率化を図る。	スマート農業の導入支援						

【レジリエント】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール						備考
			R8	R9	R10	R11	R12	R13以降	
エネルギーの循環利用(地産地消)を目指した取組	町・民間事業者	川島IC南側地区に、エネルギーの循環利用や地産地消の機能を有した産業団地を整備し、周辺地域も含めた高い災害レジリエンスを備えたまちづくりを推進する。							
			関係機関調整・事業推進						
災害時の電源確保	町・民間事業者	緊急避難場所に指定している一部の学校等には太陽光パネル、蓄電池、EV充電スタンドが設置されているが、全緊急避難場所についても災害用電源の整備を推進する。							
			災害用電源の整備検討						
エネルギー供給の体制整備	町・民間事業者	非常時に備え、周辺自治体や民間企業との協定の締結により、電気・ガス等のライフラインが速やかに復旧できるように事業者や関係団体との体制構築に取り組む。							
			構想策定	関係機関調整・事業推進					
河川監視カメラや水位計の設置	町・民間事業者	水害発生時の避難の迅速な判断に資する情報を収集するため、河川監視カメラや水位計の設置を促進する。							
			河川監視カメラ・水位計の設置検討						
水防拠点等の整備	町・民間事業者	荒川・入間川の氾濫が発生した際の町内の緊急避難所の確保と水防拠点等の整備を図る。							
			水防拠点のあり方検討						
【再掲】川島IC周辺の産業活性化の促進	町・民間事業者	町の産業復興と雇用創出の核となる企業集積の基盤を確保し、地域経済の活性化を図るために、川島IC南側地区の整備を推進する。また、エネルギー融通や災害時の資材提供など、周辺地域と一体となった持続可能なまちとなるように整備を進める。							
			関係機関調整・事業推進						

KPI

コンセプト	指標	基準値(調査時点)	目標値(達成年度)	備考
全体共通	町民アンケートにおける、住みよさ町民満足度	63.2%(令和2年度)	70.0%(令和12年度)	第6次川島町総合振興計画
コンパクト	川島町地域活動センターの施設利用者数(累計)	37,458人(令和7年度)	272,878人(令和13年度)	第6次川島町総合振興計画
スマート	デマンド型交通利用者数(累計)	7,060件(令和6年度)	60,872件(令和13年度)	
スマート	認定新規就農者数(累計)	22人(令和6年度)	33人(令和12年度)	第6次川島町総合振興計画
レジリエント	非常時の電源が確保された施設数(累計)	9箇所(令和6年度)	11箇所(令和13年度)	